

Title	アメリカにおける共同体(続)
Sub Title	Some communities in the United States (cont.) : Shakertowns
Author	白井, 厚
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1977
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.70, No.3 (1977. 6) ,p.371(117)- 381(127)
JaLC DOI	10.14991/001.19770601-0117
Abstract	
Notes	資料
Genre	Journal Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19770601-0117">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19770601-0117</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## アメリカにおける共同体(続)

白井 厚

1. アーミッシュの村
2. 第2回歴史的共同体会議
3. ニュー・ハーモニー再訪〔以上69巻7号〕
4. シェイカーの村〔本号〕

帰国後送られてきた歴史的共同体の保存と研究に関するピッツァ教授の論文は、アメリカの共同体の現状を簡潔に描いているので、そのあらましを紹介しておこう。

“アメリカに広く散在する歴史的共同体は、建築・技術・文化・学問などにおいてアメリカ史に重要な貢献をしたために、その意義が認められ再建維持されているものもあるが、多くは失われてしまった。Brook Farm はボストン市の拡大に屈し、フリー主義のファランクスはごく僅かしか残っていない。ニュー・ヨーク州 West Seneca の Inspirationist の Ebenezer 村は建築のため消滅し、インディアナ州の West Union シェイカー村は単なる農地になり、ニュー・ハーモニーのハーモニスト教会はドアと煉瓦だけが残っている。イリノイ州 Nauvoo の大モルモン寺院は放火と雷で焼失し、その後そこでイカリ派が栄えたことを示すものも何もない。カリフォルニア州の Visalia に近い Kaweah Cooperative Commonwealth は Sequoia 国立公園がつくられたためになくなり、同州の Santa Rosa における Thomas Lake Harris の spiritualist の Fountain Grove は全く消失した。

しかし最近数年間に復旧、公開されたものもあり、イリノイ州北西部の Bishop Hill、ミズーリ州北東部の Bethel、ニュー・ハーモニー、オハイオ州の Zoar、ペンシルヴェニア州の Bethlehem と Harmony は、現在町としても機能し、祭や会議その他

の行事がその歴史にちなんで行われている。また住民のいない博物館的な史跡として復元されたものもあり、その例としては、ペンシルヴェニア州 Ambridge の Old Economy、Ephrata の Ephrata Cloister、ケンタッキ州のプレザント・ヒルとサウス・ユニオン村のシェイカー村、マサチューセッツの Hancock シェイカー村、オハイオ州 Kirtland とイリノイ州 Nauvoo のモルモン史跡、マサチューセッツ州 Harvard の Fruitland Museum などがある。ニュー・ヨーク州 Oneida とアイオワ州 Amana には共同体主義者もしくはその子孫が住んでおり、メイン州 Sabbathday Lake とニュー・ハンプシャー州 Canterbury には昔の頑丈な建物に今も少数のシェイカーが住んで昔ながらの信仰生活を実践している。Hutterites についても同じで、北ダコタ州、南ダコタ州、ウォシントン州 Montana およびカナダの Manitoba, Saskatchewan, Alberta において1874年以来彼らの共同体生活が続いている。また学校が共同体の施設を買い取り使っている例もあり、ニュー・ヨーク州 New Lebanon のシェイカー建築を買った Darrow 学校、カリフォルニア州 Point Loma の初期 Theosophical Society (仏教とバラモン教にもとづく汎神論的輪廻説を説く団体で1875年創設——白井注) の土地にある Nazarene Point Loma College などである。

1974年に、Temple 大学の人類学・社会学部は John A. Hostetler の指導によって Center for the Study of Communal Societies を創立、Communal Studies Newsletter を発行し始めた。また社会学者 Ruth Shonle Cavan は共同体に関する学者たちを北イリノイ大学に集め、翌年もこの会議が開かれて、その成果は International Review of Modern

*Sociology* の共同体特集号となった。また1974年私は14の歴史的共同体を訪問し、その関係者が相互の情報を望みつつも得ていないのを見出したのである。そこで私は数人の人たちと準備を整え、同年11月ニュー・ハーモニーで80人を集めて会を開いた。これには14の歴史的共同体から参加者があった。

1975年のシェイカータウンの会議では、ニュー・ハーモニーの会議、北イリノイ大学の会議、テンブル大学センターの人たちが初めて合流し、全国歴史的共同体協会をつくった。この協会は、アメリカの伝統的共同体の資料保存とその文化・工芸の研究を意図している。インディアナ州立大学の共同体研究センターは、Temple University Center for the Study of Communal Societies, Cleveland の Western Reserve Historical Society のシェイカー・コレクション、サン・フランシスコの California Historical Society Library にある Paul Kagan が始めた Utopian Studies Collection, イリノイ州 Springfield の Sangamon State University における Environments and People Program of Edward Hawes, National Trust For Historic Preservation, American Association for State and Local History との協力を唱えている。センターは多数の歴史的共同体の過去現在に及ぶ資料を集めることを目指している。<sup>(1)</sup>

× × ×

ニュー・ハーモニーの復興・整備事業は、すでに述べたようになりに有名になったので、新聞や雑誌においてもしばしば紹介されている。その状況を、その後送られてきた *Star Magazine*, June 29, 1975. *Wall Street Journal*, Dec. 30, 1975. *MD, Medical Newsmagazine*, Vol. 20, No. 5, May 1976 などをもとにたどってみよう。

ニュー・ハーモニーに対する投資は莫大なもので、インディアナポリスの Lilly Endowment, Inc. は 580

万ドル、インディアナ州政府は481万5千ドルなど、総額実に2100万ドルに及ぶ。これは村の人口971人で割ると、1人当たり実に22070ドル(約600万円)という膨大なものだ。新建設の主なものを挙げると、リリィ基金の金150万ドルによってヴォバッシュ川岸に visitor center および Atheneum (アスィニウム、文化会館) を建てる。この中には、博物館、工芸館、画廊、講堂、集会室および1000席の円形劇場が含まれる。また州の資金370万ドルを投じて付近に3200エカの州立公園がつくられ、キャンプ場などがその中にできる。別に100万ドルを投じてハイウエイが整備される。他にケネス・デイル・オウエン夫人の寄付によって病院も新しくつくられる。

ニュー・ハーモニーにはすでに無蓋教会に35万ドル、ニュー・ハーモニー・インに300万ドルというように、計850万ドルに及ぶ資金が投入されてきたが、ここにまたその2倍以上の資金を投下することにより、さまざまな変化が生じた。建築関係の一時的な仕事を除いても、町には200の新しい仕事が生まれて景気が良いが、同時に不動産の価格は3倍に、中心地の地代は15倍に急騰、さまざまな面で利害の衝突、地元民と外来者とのあつれき生まれ、これではニュー・ハーモニーではなくニュー・ディスハーモニーだともで言われている。現に地方選挙において町が整備計画に資金を支出することに反対という候補者が現れたり、期待ほどの雇用が創出されていないと不満を洩らす人がいたり、5~7年後には年間50万人から60万人の観光客があるというシュヴァルツ氏の計画がそのとおり実現しそうにないという失望の声が聞こえたり、かつてロバート・オウエンの実験が混乱を生んだまさにその場所で、150年後の実験もいろいろ波風を立てているようだ。

しかしこの復興・整備計画によって、町の歴史に光があてられ、さもなくば失われたであろう貴重な文化財が保存され、埋もれた価値が認識されるようになったことは確かである。散在していた歴史的な建物はもとあった場所に移動、建築の損壊部分は補修、昔の

注(1) Donald E. Pitzer, "Organizing Historic Communes for Preservation and Scholarship," *Communal Studies Newsletter*, Temple University Center For the Study of Communal Societies, Vol. 3, No. 2, July (1976), 13-16.

アメリカの共同体研究については、ほかに Robert S. Fogarty, "Communal History in America," *American Studies, an International Newsletter*, Vol. 12, No. 2 (Winter 1973), 3-21. (同氏の同内容の論文は *Choice*, Vol. 10, No. 4 (June 1973), 578-590.) *The International Review of Modern Sociology*, 1976 (Special Issue: Communes: Historical and Contemporary) など多くの文献があるが、日本では南博「初期ユートピア思想」(思想の科学研究会編・都留重人監修『アメリカ思想史』第2巻、日本評論社、1950年)などの古いものしかなく、非常に遅れているようだ。

色彩が復元されて、歴史を偲ぶのに便利になった。また施設の整備によって、かつてオウエン後のニュー・ハーモニーがそうであったように、村全体が一つの文化センターとなり、大学生の演劇や音楽会がオペラ・ハウスで催され、美術工芸品がつくられ、教育重視のオウエン的伝統を守って、各種の成人教育講座、講演会、陶芸教室、工芸教室、考古学教室が開かれるようになったのである。なお、オペラ・ハウスに隣接して劇場附属の建物が、アーミッシの一团によって建設されたことを、前稿との関連でつけ加えておこう。

× × ×

前回に触れたヘレン・エリオットさんの新著は、約150ページの『追憶』(Helen Elliott, *In Retrospect*, 1976)と題した私家版となって現れ、東京へ送られてきた。歴史家である彼女は、これを単なる家族史であって一族の若い世代をしてその家系に興味を感じさせればその目的は達せられると謙遜しているが、丁度150年前、オウエンの時代から始まる彼女の家系史は、ニュー・ハーモニーの旧家の“ルーツ”として、この村の歴史に新しい光を投げかけている。

彼女の曾祖父の父James Elliott (1780-1844)は、イングランドのSurrey州に生まれ、1818年渡米してインディアナのInglefield近くで土地を得たが、オウエンの村の話を聞いて1825年これに参加した。おそらくオウエンが資産家だという噂に動かされたのだろうと言われる。その長男つまり彼女の曾祖父John Elliott (1810-1864)は、父のあとを追って渡米し、1826年父にめぐり会った。これは丁度オウエンとマクリューアが対立して分裂した時期で、エリオット家はニュー・ハーモニーの東にある“Feiba Peveli”という名の第三の共同体に属したのである。一家は農業を行い、1828年この共同体の解体の際、オウエンの子供たちから90エーカーの土地を購入した。この土地は、今日までエリオット家が所有している。

祖父 John Bennett Elliott (1836-1904)は、インディアナ大学に学び、またリチャード・オウエン大佐の影響で軍学校に入った。その妹Miriam Elliott (1838-1914)は、ミネルヴァ・クラブの会員であった。父 Elmer Ellsworth Elliott (1865-1965)は、農業と不動産事業を行い、New Hammony Bank、後に New Harmony National Bank の頭取、労働者会館の理事長をつとめた村の名士である。

彼女はこの5代にわたる家系をたどり、また母方のWilson家、ニュー・ハーモニーでの生活、オハイオ州のOxford女子大学における学生時代、高校教師時代、インディアナ大学における研究などを語りつつ、ニュー・ハーモニーの生活を追憶する。オウエン家との関係、南北戦争や農業革命の影響、オペラ・ハウスの思い出、村の復興など、村の歴史を知るための貴重な手がかりが沢山あり、ニュー・ハーモニー関係の史料にはここにまた重要な一冊が加わったと言うべきであろう。

#### 4. シェイカーの村

##### 〔ケンタッキ図書館〕

1975年11月12日、Owensboroを経てBowling Green泊。オウエンズボロウは、地名はオウエンに関係があるのかもしれないが、誰に聞いても明らかでなく、散文的な工場とたばこ市場の町である。ボウリング・グリーンの方は大学町で、南北戦争中砲台となった小高い丘に、州立 Western Kentucky 大学がある。広いキャンパスの中央部にある名所の一つが Kentucky Building で、1939年創立、ケンタッキ史の図書館・博物館・美術館である。折り悪く雪となった翌朝、滑らぬように車を徐行させて丘を上り、堂々たる3階建ての内部の貴重書室 The Robertson Reading Roomを訪れると、すでにニール女史の配慮でイムレイ関係の文献が机上でわれわれを待ち受けていた。ここに主なもの、<sup>(2)</sup>『北米西部地誌』の初版、2版、

注(2) Imlay, George. *A Topographical Description of the Western Territory of North America: containing a succinct account of its soil, climate, natural history, population, agriculture, manners, and customs. With an ample description of the several divisions into which that country is partitioned; to which are added, The Discovery, Settlement, and Present State of Kentucky. And An Essay towards the Topography, and Natural History of that important Country.* By John Filson. To which is added, I. The Adventures of Col. Daniel Boon, one of the first settlers, comprehending every important occurrence in the political history of that province. II. The minutes of the Piankashaw Council, held at Post St. Vincent's, April 15, 1784. III. An account of the Indian nations inhabiting within the limits of the thirteen United States; their manners and customs; and reflections on their origin. The second edition, with considerable addition, London: J. Debrett, 1793. この2版は書名が少し変わっており、他の論文が加えられている。イムレイの名前が変わった理由は明らかでない。3版では再び Gilbert Imlay.

Dublin 版 (1793年)<sup>(3)</sup>, ニュー・ヨーク版 (1793年)<sup>(4)</sup>, その附録となった J. フィルソンの『ケンタッキの発見・入植・現状』などのほか, *Description of Kentucky in North America: to which are prefixed Miscellaneous Observations, respecting the United States, 1792*, があり, この中にはイムレイの編集者宛手紙, ケンタッキの歴史・地理についての手紙などがある。また Winterbotham, William. *Historical, Geographical, Commercial and Philosophical View of the U. S. A.*, 1796, Vol. 3. にも手紙の技粋があり, Hall, James. *Romance of Western History*, 1857. や Toulmin, Harry. *Description of Kentucky in North America, 1792*. などには『北米西部地誌』の一部が収録されているので, イムレイの書はロンドンで発行をされながら直ちにアメリカにおいて注目されたと言いうるであろう。

この図書館での“発見”の一つは, McMurtry, R. Gerald. *A Series of Monographs concerning the Lincolns and Hardin County, Kentucky*. Elizabethtown, Kentucky: The Enterprise Press, 1938. という書物で, これに“Gilbert Imlay in Hardin County”という短い章がある。それによれば, イムレイは独立戦後西部へ移り, 1784年頃に Louisville に住み, 測量師として George May に雇われたとのことである。そして近年 Samuel Haycraft, Junior の私文書の中から 1785年 7月 20日付 Woolfolk Helm 宛のイムレイの手紙が見つかったとして, その全文を掲

げている。これはこの地のインディアンと測量問題に関するもので, 少なくともこの地における彼の活動の一端を実証するものであろう。この論文の筆者はテネシーのリンカーン記念大学の人だが, こうした地方史の論文は, やはり地元の図書館に行かなければ目にすることは難しい。

この図書館の資料で目立つものの一つは, サウス・ユニオン・シェイカー村に関するもので, 1811-1916 年に及ぶさまざまな時期の日記, 記録文書, 会計帳, 手紙, 讃美歌集などを含むそうだが, 残念ながらそれらにまで目を通す時間はなかった。昼近くなるとニール女史が現れ, 5日ぶりの再会を喜ぶわれわれを食堂に招き, ケンタッキ館の館長 Riley Handy 氏および Harrison 教授と共に会食の機会を設けてくれた。食後直ちにニール女史の車で出発。雪は雨に変わり, 滑りやすい道を御老体の運転ではいささか危険に思えたが, 20分ほどで無事にサウス・ユニオン・シェイカー村に着くことができた。

#### 〔シェイカーの歴史〕

シェイカー<sup>(6)</sup> (正しくはキリスト再臨信者統一協会 The United Society of Believers in Christ's Second Appearing, また至福千年期教会 The Millennial Church) とも言い, 指導者たちは, 真理を伝える人という意味の Alethians と呼ばれることを好んだ) は, クエイカー (キリスト友会 Society of Friends) から派生したもので, Shaking Quaker とも言われる。

注(3) ダブリン版は小型本で書名も *A Description of the Western Territory of North America; .....と, Topographical* が抜けただけで他は初版と同じである。Dublin: William Jones, 1793.

(4) これも小型本で, 書名は *that country is partitioned*, が *that country is divided*. に変っただけで他は初版と同じ。New York: Samuel Campbell, 1793.

(5) Filson, John. *The Discovery, Settlement, and Present State of Kentucky: and an Essay towards the Topography and Natural History of that important Country*. New York: Samuel Campbell, 1793. この書には, 『北米西部地誌』の2版に加えられたもののほか, IV. A report of the Secretary of State, to the President of the United States; of the quantity and situation of the lands, not claimed by the Indians nor granted to, nor claimed by any citizens within the territory of the United States. V. Thoughts on emigration; to which are added miscellaneous observations relating to the United States. And a short account of the state of Kentucky. が含まれている。この書は『北米西部地誌』のアメリカ版と同じ出版記から出され, その年のうちに両者の合本がロンドンから出たことになる。

(6) シェイカーの文献としては, 次のようなものがある(発行年順)。  
Evans, Frederick W. *Shakers: Compendium of the Origin, History, Principles, Rules and Regulations, Government and Doctrines of the United Society of Believers in Christ's Second Appearing*. New York: 1859. Rpt., 1975.

Nordhoff, C. *The Communistic Societies of the United States*. 1875.

Robinson, Charles E. *A Concise History of the United Society of Believers Called Shakers*. East Canterbury, New Hampshire: 1893, Rpt., 1975.

White, Anna and Taylor, Leila S. *Shakerism. Its Meaning and Message*. Columbus, Ohio, 1904. Rpt., 1972.

MacLean, John P. *A Bibliography of Shaker Literature, with an introductory study of the writings and*

クエイカーは“内なるキリスト”“内なる光”の信仰によって特異な集団を形成し、聖職者否定、教会批判、非暴力主義、反戦、多数決批判、平和主義、奴隷解放、女性解放、教育の普及、監獄改善、死刑廃止、精神病院改善などさまざまな先駆的社会運動を行ってきた。その教祖 George Fox (1624-91) も一時アメリカに伝道したが、その弟子 William Penn (1644-1718) は1681年にチャールズ二世から今のペンシルヴェニア地方の支配権を得、クエイカーの移民を伴って移住しフィラデルフィアを建設、これが植民地時代のアメリカ最大の都市となり、建国の中心地となったこと

は言うまでもない。ペンシルヴェニアは、宗教の自由を公的に宣言し、迫害に苦しむさまざまな宗派の人たちを受け入れて、文字通り自由のオアシスとなった。前述のアーミッシュたちもその恩恵に浴したわけである。

またアメリカの独立に最も大きな直接の思想的影響を与えたトマス・ペインは、クエイカー教徒の子に生まれ、その影響の下に個人主義、平和主義、人類愛の思想を抱き、ペンシルヴェニアに渡ってジャーナリストとして華々しく活躍し、奴隷解放、女性解放にも先駆的役割を果たしたことを考えれば、アメリカの

- publications pertaining to Ohio believers*. Privately pr., Columbus, Ohio, 1905. Rpt., 1970.  
 Shears, Clara E. *Gleanings from Old Shaker Journals*. Boston, 1916. Rpt., 1975.  
 Andrews, Edward Deming. *The Community Industries of the Shakers*. 1932. Rpt., 1972.  
 Andrews, E. Deming and Andrews, Faith. *Shaker Furniture: The Craftsmanship of an American Communal Sect*. New Haven, Conn.: Yale University Press, 1937. Dover Publications, 1964.  
 Melcher, Marguerite F. *The Shaker Adventure*. Princeton, New Jersey, 1941.  
 Tyler, Alice Felt. *Freedom's Ferment. Phases of American Social History from the colonial period to the outbreak of the Civil War*. The University of Minnesota Press, 1944. Rpt., Harper Torchbooks, 1962.  
 Neal, Julia. *By their Fruits. The Story of Shakerism in South Union, Kentucky*. Chapel Hill, N. C., 1947. Rpt., 1975.  
 Andrews, E. Deming. *The People Called Shakers: A Search for the Perfect Society*. Oxford, 1953. New York: Dover Publications, 1963.  
 Andrews, E. Deming. *The Gift to Be Simple: Songs, Dances and Rituals of the American Shakers*. New York: J. J. Augustin, 1940. New York: Dover Publications, 1962.  
 Whitney, Norman J. *Experiments in Community: Ephrata, Amish, Doukhobors, Shakers*. Bruderhof & Monteverde, 1966.  
 Desroche, Henri. *The American Shakers; From Neo-Christianity to Presocialism*, tr. and ed. by John K. Savacool. Massachusetts: University of Massachusetts Press, 1971.  
 Andrews, Edward D. and Andrews, Faith. *Visions of the Heavenly Sphere. A Study in Shaker Religious Art*. Charlottesville: University Press of Virginia, 1969.  
 Shea, John G. *The American Shakers and their Furniture*. Van Nos Reinhold, 1971.  
 Faber, Doris. *The Perfect Life: The Shakers in America*. FS&G, 1974.  
 Pearson, Elmer Ray and Neal, Julia and Whitehill, Walter M. *The Shaker Image*. NYGS, 1974.  
 Whitworth, John McKelvie. *God's Blueprints: a Sociological Study of Three Utopian Sects*. London: Routledge & Kegan Paul, 1975.  
 Andrews, Edward D. and Andrews, Faith. *Fruits of the Shaker Tree of Life: Memoirs of Fifty Years of Collecting and Research*. Berkshire Traveller, 1975.

(7) “ペインが革命時代のすぐれた指導者のひとりとなったのは、彼が革命の原理をよく体得していたからである。それでは、グラマー・スクールに学んだだけのペインが、どうしてこのような資格を得たのであろうか。

それにはまず、彼は、父親のクエイカー主義から深い感化を受けたことが考えられる。彼自身も「父がクエイカー教徒であったので、わたしは非常に立派な道德教育とかなり豊富な有益な知識とをさずかることができたのは、わたしにとって幸運であった。」(M. Conway; *The Life of Thomas Paine*, 1909, p. 5) といっている。彼が、クエイカー主義から学んだのは、信仰生活における厳格な個人主義、人類愛の精神、および平和主義であったことはいまでもない。そして、これらは、いずれも『コモン・センス』のみならず、その後の著作の中に、にじみでているところである。”小松春雄訳『コモン・センス』解説、1954年、108-9ページ。

ペインは *The American Crisis* においてクエイカーたちが独立革命に参加しないことを非難している (Philip S. Foner, ed., *The Life and Major Writings of Thomas Paine*. New York: The Citadel Press, 1961, pp. 90-92.) が、*The Age of Reason* においては、真の理神論に最も近いのはクエイカー教だと述べている (*ibid.*, p. 498, 597)。クエイカーに対する子供時代の印象は暗いものだと言っている (*ibid.*, p. 498) が、戦争反対、人類愛、動物愛、地味な服装などはすべてクエイカーから得たものであった。(Audrey Williamson, *Thomas Paine, his Life, Work and Times*, London: George Allen & Unwin, 1973, p. 24.) 奴隷制反対、人間の平等性の主張などクエイカーの影響は強く、晩年にはクエイカーの墓地に埋葬されることを望んだにもかかわらず、クエイカーたちは、ペインの友人たちはペインの墓に記念碑を建てたがるだろうが、それはクエイカーの掟に反するから、といって拒んだ。(David Freeman Hawke, *Paine*, New York: Harper & Row, 1974, p. 395.)

初期の歴史にクエイカーがいかに密接な関連を持っていたかが理解されよう。

シェイカーは、17世紀の末にフランスで生まれた急進的なクエイカーの一小派で、迫害によって1706年イギリスに移り、労働者階級の間で少数の信者を得た。1747年 James Wardley と Jane Wardley を指導者として復活、1758年に改宗したマンチェスター生まれの無学な Ann Lee Stanley (1736-84) を教祖とした。彼女は強い個性の持ち主で、多くの啓示を得、特に幻の中にキリストから彼女こそキリストの第二の受肉であると啓示されたという。ここに、地上におけるキリストの王国がシェイカー教団の確立と共に始まったことになり、彼女は“Mother Ann”とあがめられ、病気を治すなどの奇蹟を行ったと言われるが、奇妙な異端宗教者として迫害された。そこで新大陸に至福千年期教会を建設せよとの啓示を得たとして、家族を含む6人の男性、2人の女性と共に1774年アメリカに渡り、ニュー・ヨーク市に2年とどまったのち、1776年ニュー・ヨーク州のAlbanyに近いWatervlietに住んだ。そしてその影響で同州のNew Lebanonに1780年に最初のシェイカー村ができ、かくてシェイカーは、アメリカにおける共同体の中でも最古のもの<sup>(8)</sup>の一つとして、共同体の歴史に大きな地位を占めることとなったのである。

独立戦争においては信仰のゆえに兵役を拒否し、信者が投獄されるなど苦難の道をたどりながらも伝道につとめ、1784年アン・リーが死んだ時には、ニュー・ヨーク、マサチューセッツ、コネティカットに弟子がおり、James Whitaker、ついでアメリカ生まれのJoseph Meacham、Lucy Wrightが指導者となり、信者の数を増した。ミーチャムは宗派内の秩序を定め、規則をつくり、その教義を法典にまとめている。特に信者が増えたのは、19世紀初頭のアメリカの宗教史上“第2の大覚醒(Second Great Awakening)”と呼ばれる異常な信仰復活・昂揚期で、1821年から1861年まで活況が続き、1830年頃の最盛期には全国で18の村、58のファミリーがあり、信者数5千人を越えたと言われる。しかし、1860年代から、南北戦争、戦後処理のあつれき、共同体への関心が薄らいだこと、そして外部の産業化が進んだことのために、教運は衰え、独身制のゆえもあって、1874年には2415人に半減、1890年には1728人、1910年には500人ほどに減少してしま

った。1930年にはわずか20人という数字が挙げられている。<sup>(9)</sup>

#### 〔シェイカーの教義〕

社会思想史上シェイカーが興味深いのは、それがアメリカ社会主義の一源泉であること、アメリカで最も早い共同体の一つであること、例外的に大きくなり、かつ永続したこと、そこで共産主義・男女平等・独身制・人種差別撤廃などが行われたこと、などのためである。

男性支配の強いキリスト教においても、クリスチャン・サイエンスなど女性を教祖とする派がいくつかあるが、シェイカーはその代表例であり、女性教祖のゆえに特異な教義を形成した。すなわち神は男女両性を持つ(bisexuality)というもので、この両性はいろいろなものに貫徹される。たとえば神の姿に似せて創られたアダムも、天使も、聖霊も、男女両性を持っている。そしてキリストの魂はまずユダヤ人の大工の息子イエスに現れ、ついでイギリス人の鍛冶屋の娘アン・リーに現れ、それによってキリスト再臨の約束は果たされたという(同じようにバプティストのヨハネの魂はまずヨハネに、ついでシェイカーのJane Wardleyに現れたとする)。こうして魂(聖霊)と肉体を峻別するから、彼らはイエスとアンを愛するが、特に神の子として崇拝はしない。かくて三位一体説は否定され、キリストの肉体が復活したという説は、科学にも理性にも聖書にも矛盾するとして捨てられる。

彼らの説によれば、人類の歴史は、ノアまで、イエスまで、リーまで、現在の四段階に分けられ、彼らの教団が創立された時に審判が始まったことになり、キリストの王国が到来した。そこで今はResurrection Order、つまりすべての人が復活する時であり、死者の霊と共にある時代である。霊の世界に生き、キリストの道に従うことは普通の生活によっては不可能であって、俗世間からの隔離、私有財産の否定、結婚の否定が不可欠である。

シェイカーたちが肉体的な快楽を否定したのは、教祖リーが性の快楽を嫌悪したことにもよるであろうが、彼らは精神の純化のために苦業を尊び、肉欲に誘惑された者には裸にして打つなど厳罰を加えた。信者は自分の財産をすべて共同体に捧げ、自分の罪を告白し、

注(8) Morris Hillquit, *History of Socialism in the United States*, 1910 (N. Y.: Dover Publications, 1971), p. 29.

(9) F. L. Cross, ed., *The Oxford Dictionary of the Christian Church* (London: Oxford University Press, 1957), p. 1249.



一切の娯楽を遠ざけて、祈りと労働のうちに集団生活を送ったのである。その中では男女の平等が守られ、病弱者も老人も彼らの中では歓迎された。隔離、独身、共有、無抵抗平和主義、罪による肉体の病を精神で治す、という五つが彼らの基本原理であった。

彼らはもちろん新旧の聖書を尊重するが、これを神の直接の言葉から区別する。彼らにとっては、神の言葉は書物ではなく、キリストの精神、啓示である。彼らは聖体拝領と洗礼を行わない。

シェイカーの特徴の一つは、長い伝統を持つ踊りである。信者の生活は、集会参加・労働・勉強・冥想と厳しいものであり、僅かな読書が許される程度で、娯楽の類は一切なかった。集会における楽器を用いぬ歌と踊りも、宗教儀式として厳粛なものだったと思われる。しかしその聖なる踊りは集団で熱狂したものだったようで、次のように描写されている。

“床の上や地面の上で、ふるえ、揺れ動き、けいれんし、手を急に動かし、旋回し、跳び、はね、足を踏み鳴らし、片手もしくは両手を伸ばしながら、まるで定められた道をそれぞれ押しやられているように走る。ある人は吠え、叫んだ。そしてほかにいくつもの動物の声を真似た——これらが、苦業の恩恵なのである。”<sup>(10)</sup>

この踊りは外部の人にとっては奇異であり、嘲笑的となった。特に男女が集団で向かい合い、身体内の罪を指の先から振り落とす象徴として腰のあたりに手をあげて手を振る踊りが特徴的で、シェイカーという名がこうした踊りから起こったことは言うまでもない。従って当初この語は外部の人がつけたあだ名だが、信者たちもこの語を用いるようになった。(クエイカーの場合も“主の御言葉に震える”ことからつけられたあだ名をその名称とした。)

#### 〔シェイカーの組織〕

シェイカーは、大部分が無学な貧民<sup>(11)</sup>だったが、牧師、法律家、医師、学生なども加っていた。彼らは、Novitiate (修練中の入会者で、共同体の中に住まず、集会にのみ出席する)、Junior (修練中だが村の中に住む)、Senior (Church Orderとも呼ばれ、私有財産を持たず、教会に献身する)の三階級にわかれる。虚栄心を脱するためにクエイカーのように簡素な制服を着、女性は肩掛けと麦

わらのボンネット、男性は麦わらやフェルトの帽子を着用し、共同体参加者は、30人から100人位の男女が一つの大きな建物の中で共同生活を営む。これを“家族” family と呼ぶのだが、通常の家族と異なり、男 (brothers) と女 (sisters) は全く接しない。建物は多くは左右対照で、出入口もたいてい同じものが左右に二つあり、右側に男性、左側に女性が住んで、廊下を一つ隔てるのみで完全に独身生活を守った。男女は、握手をしたり、かくれて手紙を書いたり、贈り物をしたりしてはならず、一組になって働いたり散歩したりしてはならず、一人だけで異性を訪れることも許されない。彼らは、共に祈り、共に踊り、共に働き、共に食事し、共に休むが、これが共同と分離が統一された奇妙な共同生活——“家族”なのである。それはまた、困難な状況の下で性欲を抑制する宗教的訓練の場でもあったろう。

しかも、この男女は平等であった。一つの“家族”の中から、2人の男性長老 (elders) と2人の女性長老 (elderesses) が選ばれて信者の主に精神面の指導に当たり、また2人の男性執事 (deacons) と2人の女性執事 (deaconesses) が仕事の監督など世俗的な業務を行った。ほかに管財人 (trustees) がいて財産の管理と外部との交渉を担当した。そしてふつう4“家族”位が society を構成し、これが一つのシェイカー村なのだが、そこで長老たちは長老会議 (ministry, bishopric) を構成して、その長 (leading elder, leading character) は、絶対的な権限をもって村を指導、全信者の告白を聞き、村の全役員と、自分の後継者を指名しうるのである。

村は広い農場を持ち、経済は主に農業によって維持された。短期の季節的労働者を除けば、作業はすべて信者によって行われるのだが、何しろ夏は4時、冬は5時起床で9時半までに就寝、禁酒禁煙、食事は7時・12時・6時という規則正しく勤勉な生活と共同作業のために、その産物は豊かだった。また簡素な生活であるから余剰物資は多く、さらに農業に改良を加え、園芸用種子、菜草、保存果実・野菜などが多量に商品化され、好評であった。また特筆すべきは彼らの手工業で、さまざまな職業の人が集って工夫をこらし、建築・工芸作品・機械などに大きな進歩を示した。たとえば草刈機や印刷機などを改良したばかりでなく、円

注(10) Mark Holloway, *Heavens on Earth, Utopian Communities in America 1680-1880*, 1951 (New York; Dover Publications, 1966), p. 75.

(11) Alice Felt Tyler, *Freedom's Ferment* (New York: Harper & Brothers 1962), p. 150.



のこぎり、スクリー推進器、バビット合金、回転まぐわ、タービン水車、脱穀機、回転天火などは、アメリカではシェイカーの発明と言われている。

〔プレザント・ヒル・シェイカー村〕

ニュー・ヨーク州に生まれたシェイカー村は各地に広がり、1843年には、ニュー・イングランド地方ではメイン州の Gloucester, Alfred, ニュー・ハンプシャー州の Enfield, Canterbury, マサチューセッツ州の Hancock, Tyringham, Shirley, Harvard, ニュー・ヨーク州の Watervliet, Mt. Lebanon, Groveland, 中西部ではオハイオ州の North Union, Watervliet, White Water, Union Village, ケンタッキー州の Pleasant Hill, South Union などに存在した。

宗教的昂揚期にニュー・ヨーク州のシェイカー村から三人の信者が中西部に来て、オハイオ、インディアナとケンタッキーに村をつくったが、その時にできたケンタッキーの村が、プレザント・ヒルとサウス・ユニオンである。第二回歴史的共同体会議の行われたプレザント・ヒルは、1805年から1910年にわたってシェイカーたちが住み、総本山であるMt. Lebanonにつぐシェイカー運動の中心地として繁栄した。信者の寄付や買収によって土地を増してついには3000エカの土地を所有し、最盛時には500人近くの人々が生活したと伝えられる。彼らは約1500エカの土地を耕し、麦・

とうもろこし・じゃが芋・ほうきもろこしなどをつくり、果実を実らせ、新種の羊・牛・豚を殖やし、バターやチーズやぶどう酒をつくり、紡績・織物・製帽・製粉・製材・製紙・印刷・搾油・家具製作などを行った。特にびんづめの保存果実・園芸種子・薬草・広巾ほうきは、この村の特産で、手広く売られ、シェイカーのブランドの名を高からしめたのである。

20世紀の初めに村は売りに出され、最後のメンバーも1923年に亡くなったそうで、今は一人のシェイカーもここに住んでいない。しかし Shakertown at Pleasant Hill, Inc. という法人がこの村を19世紀初期の状態に復元し、当時の典型的なシェイカー村の姿を一般に公開している。

村はかなり広い芝生で、ところどころに木が茂り、大小30軒ほどの石造り2～3階建ての美しい建物が点在して、静かな郊外の村という感じだ。中央部には東西にのびる広い道があり、道からかなり離れたあたりには、池、泉、家畜小屋、墓地なども見られる。村の中央に位置する大きなT字型の白い家が、中央住居棟(Centre Family Dwelling House)である。19世紀初期のもので、シェイカーの建築美の典型であり、二つの入口、二つの階段、各階の中央廊下で、男女を意味深長に隔てている。彼らの居室は簡素そのもので、家具といえば机、戸棚、ストーブ、いくつかの椅子位であり、床の小さな手製の敷物を除けば、装飾品は一切

注(12) 現在シェイカー博物館は次の地にある。

- ケンタッキー州……Shakertown at Pleasant Hill; Shakertown at South Union
- メイン州……Shaker Museum, Sabbathday Lake Shaker Community
- マサチューセッツ州……Fruitlands Museum Harvard; Hancock Shaker Community, Inc.
- ニュー・ハンプシャー州……Canterbury Shaker Museum, East Canterbury
- ニュー・ヨーク州……Shaker Museum, Old Chatham
- オハイオ州……Shaker Historical Society Museum, Shaker Heights, Cleveland
- そのほかに、ボウリング・グリーンの Kentucky Museum, ボストンの Museum of Fine Arts, イギリスの Bath にある The American Museum などにもシェイカーの部屋などが展示されている。またシェイカーの文献や手書き文書類のコレクションがある所は次の通り。
- デラウェア州……Henry F. duPont Winterthur Museum Library, Winterthur
- ウォシントン……国会図書館
- ケンタッキー州……Filson Club, Louisville; Kentucky Library, Bowling Green; ケンタッキー大学 Margaret I. King 図書館
- メイン州……Sabbathday Lake Shaker Society Library
- マサチューセッツ州……American Antiquarian Society, Worcester; Berkshire Athenaeum, Pittsfield; Fruitlands Museum Library, Harvard; Massachusetts Historical Society, Boston; William College Library, Williamstown
- ニュー・ヨーク州……New York Public Library, New York City; New York State Library, Albany; Shaker Museum, Emma B. King Library, Old Chatham
- オハイオ州……Ohio Historical Society Library, Columbus; Western Reserve Historical Society, Cleveland

ない。しかし簡素なだけに木製品などは優れたもので、高さを調節しながら壁にかけろーそく立て、椅子など宗教的な意味もこめて独特のデザインを示している。部屋の周囲の壁には長押のような横木があり、そこに衣類、ろーそく立てから椅子まで掛け、部屋を広く清潔に保つのがシェイカーの部屋の特徴である。

建物の後側には、食堂と台所がある。シェイカーは一般に豚肉を食べず、さらに全く肉を食べない人、卵やバターなど酪農品まで一切食べない人もいたから、食堂のテーブルも区別されていたようだ。酒はもちろん茶やコーヒーも禁止、男女は分れ食事中は一切沈黙、しかし野菜や果物を主とした食事は量的には豊かだったといわれる。2階には子供や病人のための部屋もある。

住居棟の前には、道をへだてて集会棟 (Meeting House) がある。大広間を持つこの2階建が、シェイカーの名を轟かした宗教行事の中心で、信者はこの広間にそれぞれ別の入口から入場して儀式を行い、歌い、かつ集団舞踊をしたことであろう。2階には男女4人の長老の部屋があり、村の管理棟でもある。この隣りのやや小さな建物は長老作業場 (Ministry's Work Shop) で、シェイカーたちは全員が農業のほか各自が得意とする手仕事をを行ったので、長老たちも特別の仕事場を持った。

集会棟に並んでもう一つ大きな建物が、事務棟 (Trustees' Office) である。そこには男女の執事、管財人たちが住み、村の事務的な管理の仕事を行い、外部 (world) との交渉を担当した。すなわち訪問者を迎え、貧しい人たちに施し、物資の購入や販売を取りしきったのである。建物内部のらせん階段が有名で、また奥には食堂があり、今でもシェイカー料理やケンタッキの料理を賞味できる。

村は五つの“家族”に分かれており、1 “家族”は50～100人、それぞれがある程度の自治権を保ち、それぞれの住居棟、仕事場、納屋、農場、果樹園などを持っていた。村の東部には、東住居棟 (East Family Dwelling House) を中心に、東隣には女性の仕事場 (East Family Sisters' Shop) があり、ここで女性たちは、自家消費および販売のために、糸を紡ぎ、布を織り、縫物をし、また柳のバスケット、しゅろの葉の帽子、絹のスカーフづくりなどの手仕事をした。今もその実演が行われている。反対側西隣には男性の仕事場 (East Family Brethren's Shop) があり、男性は、ほうきの柄製作、種子の梱包、薬草・種子・保存果実

などのラベルとカタログの印刷を行った。その背後には桶造り場 (Cooper's Shop) があり、ここでも、杉の手桶、バケツなどの製作実演が行われている。住居棟の後ろには、大きな洗濯場 (East Family Wash House) があり、彼らの共同生活の規模をしるばせる。

東住居棟と中央住居棟の間に、道路から離れて靴つくり場 (Shoemaker's Shop) があり、ここでは年間500足の靴がつくられた。またその隣りは水屋 (Water House) で、中に大きなタンクが入っており、離れた所にある井戸から馬力ポンプで水を汲み上げ、ここに導いて水槽から配送、これはおそらくケンタッキで最初の水道施設だというから、往時の技術は相当なものだったのだろう。近くには村の郵便集配所 (Post Office)、遠く離れた所にはなめし皮作業所 (Tanyard Brick Shop) まである。この作業所では、馬具、靴などの皮がなめされた。

村の正面を入った所には、大工作業所 (Carpenter's Shop) がある。これも3階建でかなり大きく、1843年までは鍛冶と馬車つくりの作業場にあてられ、1870年には建て直されてほうきづくりが行われた。今は見学者のための Information and Orientation Center となっている。

道をへだててその先にあるのが、1809年に建てられた村で一番古い建築で、執事作業場 (Farm Deacon's Shop) である。始めは長老団と“家族”の住居であったが、後に旅行者の宿舎に変わった。その西側一帯にも教軒の家が集まり、歴史的共同体会議の会場と宿舎にあてられた所だが、われわれが泊ったのが西住居棟 (West Family Dwelling House) で、主に老人用だったとのことである。住居棟のそばには、仕事場や医療施設に使われた Old Stone Shop、[織物のみならずとうもろこしの皮のふとんや敷物をつくったり薬草を製品化した女性の仕事場 (West Family Sisters' Shop)、有名なシェイカーの“砂糖漬果実”を1859年には4442びんも女性たちが製造したという保存食品製造所 (Reserve Shop)、彼女たちが幾樽ものりんごを乾燥させた乾燥所 (Drying House)、水屋 (Wash House)、便所 (Privy) などがある。その他離れた場所に、農作業場、学校、季節的な日傭労働者の宿泊所などに用いられたこともある長老作業所 (Ministry's Old Yellow Frame Shop)、羊・乳牛・鶏・あひる・がちょう・馬などの家畜小屋 (Farm Animals Exhibit) がある。

〔サウス・ユニオン・シェイカー村〕

プレザント・ヒルが広い村全体の構成をよく残しているのに対し、サウス・ユニオンは、建物内部の家具、機具、調度品などをよく集めているようだ。ボウリング・グリーンから西へ約24キロ、畑の中を雨道を走ると、一部4階建ての堂々たる建築が現れる。これが1807—1922年にわたって一世紀以上続いたサウス・ユニオンのシェイカー村だが、見学者は少いとみえて5～10月しか公開されていない（9、10月は週末のみ）。しかしこの村で仕事をしシェイカー学者として知られたニール女史の力で、われわれは建物の中に招き入れられ、内部をつぶさに見ることができた。

この村には、できて1月後には26名が改宗して参加、1827年には349人が住み、6000 エイカ以上の豊かな農地と40以上の建物を所有するに至った。彼らは、勤勉、正直、工夫の才をもって近隣に知られ、輪作を始めた、新種の家畜を育てたり、種子の販売を行ったりして、最も進んだ農業者であった。また手工業にも優れ、製粉・製材・ウィスキー蒸溜・ほろぎ製造・織物を行い、女性たちは特に絹製品・保存果実・ぶどう酒づくりで有名であった。彼らの発明・工夫には、りんごの皮むき機、回転天火、円形のこぎり、洗濯機、一頭馬車などがある。

サウス・ユニオンは中西部では最後まで残ったシェイカー村だが、1922年ついに解散、その財産をすべて売却するに至った。しかし、近年家具などの蒐集がなされ、1971年には州の補助もあつてもとのシェイカーの土地3.5エイカと2建築物が買収されて、博物館としてシェイカーの生活を示している。中央住居棟（Central Family House）には各階に広い廊下、そしていくつもの部屋があり、簡素で機能的なシェイカーの家具が並べてある。絵画などはなく、くつろぎを与えるものといえばロッキング・チェア位で、机・椅子・時計なども装飾的要素を取りはらっているが、神の心を喜ばせるべく苦心の跡が現れて美事なデザインであり、引き出しが沢山ついた物入れなどは、日本のた

んすの趣きがあった。正面中央の両側にある4階に至る左右の階段、広い集会室などの偉容は、往年の繁栄、宗教的熱情を偲ばせる。

われわれの歴史的共同体めぐりはここで一応終り、この日はテネシーに出てナッシュビル泊、Vanderbilt大学の図書館を調べ、The Hermitage というジャクソン大統領の邸を見てから Fort Loudoun で TVA による発電所を見学、さらに Knoxville へ出てテネシー大学を訪問するなど、急速に20世紀に戻った。そして現実のあまりにも世俗的なアメリカの社会に接する時、シェイカーの共同体はアメリカの歴史にとって一体何だったのか、と改めて考えさせられる。

アメリカ共同体史の研究に先鞭をつけた John Humphrey Noyes は「明らかにシェイカーたちは成功せる共同体のリストにおいて最高のものだ<sup>(13)</sup>」という。確かに彼らは、その拡がりにおいて、その継続期間の長さにおいて、またその当時の影響力においても、抜群のものだと言えそうだが、<sup>(14)</sup>今はまだ少数の信徒は別の所では活躍しているにせよ、すでに遺跡か博物館の類になってしまったシェイカーの村を見ると、彼らの宗教的熱情と繁栄は春の夜の夢のごとく、荘重堅固な建物と静寂な周囲の光景はかえって一種の空しさをわれわれに感じさせる。

Mark Holloway によれば、

“シェイカーの実験は、ユートピア社会の歴史に否定的および積極的の二様の貢献をした。すなわち個人的自由の制限、権威的統治、性衝動の不自然な抑圧は、共同体を150年も続かせるための大きな犠牲であったろう。しかし共同体の理想に対する彼らの積極的な貢献も重要である。共同体の中で、これほど独自の優れた工芸・民芸品を生み出したものは、ほかにあまりない。男女の絶対的な平等の主張は、革命的であった。人種や皮膚の色を問題にしないことも、革命的であった——彼らは、その時代には、村の中にユダヤ人と黒人を含む唯一の例だったのである。彼らは、当時の奴隷制、戦争、社会

注(13) J. H. Noyes, *Strange Cults and Utopias of 19th-Century America* (New York: Dover Publications, 1936) p. 139. この書は *History of American Socialism*. Philadelphia: J. B. Lippincott & Co., 1870. のリブブリケーションで、その一部の邦訳「S. H. ノイエス著 アメリカ合衆国に於ける社会主義の歴史(1)」上田千秋訳、『仏教大学社会学部論叢』6(1972)がある。

(14) 現在でも少数のシェイカーがおり、またミシガン州の The Guild of Shaker Crafts という団体が、*The World of Shaker* という季刊新聞を発行している。1974年には、オハイオ州のClevelandでシェイカーの渡米後200年を記念するThe Shaker Bicentennial National Conventionが開かれ、シェイカーとその研究者たちが集まった。Cf. *The World of Shaker*. Vol. IV. Issue IV, Winter 1974.

の暗黒面に対して、彼らが良き生活の模範と考えるものを示すことによって、闘った。<sup>(15)</sup>

19世紀におけるシェイカーの影響は、かなり大きかったと言える。彼らの生産物が優良品として各地で売られただけでなく、農業改良や工業や技術の進歩に貢献したし、アメリカの建築史や美術史をも彩るものがあった。またこれほどの改宗者を集めたということは、宗教的にも大きな影響を持ったことを示す。しかし社会思想として重要なことは、何よりもこれがアメリカ社会主義の起源であり、しかも私有財産を否定した共同体が永続したために、多くの社会主義者に影響を与えたことであろう。たとえば、先号で述べたように、スコットランドにいたオウエンは『シェイカーの起源と行動概観』を読み、共同体の生活においては人びとは高い道徳を持ち容易に豊かになりうることを知<sup>(16)</sup>って、自分の共産主義を計画した。そして彼らの宗教の特異性にもかかわらず、彼らがその共同体を効果的に維持しえたがゆえに、共同体に関心を持つ人びとがここを訪れて、そこから多くの靈感を得たのである。<sup>(17)</sup>

さらに、その中において黒人が解放された<sup>(18)</sup>というのは小さな例ではあるが、やはり見落すべきではない。村にはサーヴァントの階級は存在しなかったから、ク

エイカー的原理にもとづいて彼らも平等に待遇されたと考えられる。そして未来の歴史に対して考えるならば、彼らの顕著な貢献は徹底した男女平等思想とその実践であろう。もちろん彼らの独身主義は一般には実行すべくもなく、また農工の作業においても男女の役割分業は存在する（男性は戸外、女性は室内の仕事が多い）のだが、彼らはその特異な神観からして、指導・管理の面においては男女同数の指導者を選び、平等観を貫いた。多種多数の共同体において、また社会主義国において、男女平等はしばしばその自明の前提であるが、現実には牢固たる男性支配が行われるのが世の常である。シェイカーの社会はその平等制が実践された稀なる例として、また将来の管理組織に対する興味深い先例として、後世から顧られることであろう。

〔後記〕 シェイカーについての新しい書誌に Mary L. Richmond, *Shaker Literature: a Bibliography* (Hanover, N. H.: The University Press of New England, 1977) がある。また重要な原資料と文献を集めた Shaker Collection of the Western Reserve Historical Society は、マイクロフィルムで利用しうる。(Microfilming Corporation of America 製作)

(経済学部教授)

注(15) M. Holloway, *Heaven on Earth*, p. 78.

(16) この問題については、土方直史「R. オウエンの思想形成における国際的契機——社会主義論の進展とアメリカの影響——」、『歴史研究と国際的契機』1974年。上田千秋「ロバート・オウエンの家系及び宗教的（メソジスト的）性格について」、『社会学部論叢』（仏教大学）9号、1975年、がある。

(17) シェイカーに対するエンゲルスの言及については、Henri Desroshe, *Les Shakers américains: d'un néo-Christianisme à un pré-socialisme?* 1955, tr. and ed. by J. K. Savacool, University of Massachusetts Press: Amherst, 1971, pp. 293-6.

(18) “シェイカーたちは福音を広めるについては寛大な考えを持っていたので、改宗者は常に歓迎された。新しい信者を得るために彼らは何度も苦勞を重ね、広く外部からも改宗者を求めた。この目的のために、彼らは黒人を購入してこれを解放し、成員に加えることもあえて辞さなかった。実際、シェイカーたちは、この国の最初の奴隷解放者のうちに数えられてきた。” Daniel Mac-Hir Hutton, *Old Shakertown and the Shakers* (Harrodsburg: Harrodsburg Herald Press, 1936), p. 61.